

完全保存版 ランキングでわかるマネー、産業、資源

# 週刊エコノミスト

2014 特大号

9/30

毎日新聞社  
特別定価670円

# ランキング で見える 世界経済

ビジネスで使える!  
アイデアの宝庫!

## 未来が読める

最強通貨、株価トップ20、  
巨大機関投資家、取引所大  
再編、自動車ウォー、新興  
スマホメーカー、中東不安  
定化、中国不動産バブル...

## データ斜め読み

県別スタバ軒数  
野球選手と年俵  
中国共産党内ランク  
テニス愛好度  
感染症リスク

集中連載スタート 法人税減税は必要か

名門高校の校風と人脈 長崎西高校

エコノミストレポート

## 労働市場改革への提言

## キホンのキ

政府債務残高、軍事費  
不平等度、観光収入、  
農産物輸出入

# 問答有用

ワイド  
インタビュー

515

## 遺品を扱う人材を育成 木村 栄治

遺品整理士認定協会理事長

人が亡くなったとき、後にはいろいろな物が残る。それを整理し、必要な物は遺族に残し、不要な物は処分する。それが遺品整理業だ。業界の健全化を目指し、資格制度を作った木村栄治さんに聞いた。

### 「故人や遺族に感謝される業界にしたい」



●プロフィール● 6月5日 さいご  
1964年北海道小樽市生まれ。北海道大学卒業後、千歳空港など市内の第三セクターに10年間勤務。退職後に広告代理店など6社を経営。2011年に遺品整理業を始める。同年遺品整理業界の健全化と遺品整理の専門化の育成を目的に「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)を設立した。

1950、80年代後半までは年間約70万人前後の死亡者数が70万人前後だったが、高齢化社会に入ると、2000年に100万人を突破。13年には123万人(厚生労働省統計)と

戦後最多を記録した。少子高齢化が進み、遺品の整理ができない高齢者の遺族も急増。さらに「孤独死」も増え、自治体や家主による遺品整理の依頼も多い。遺品整理

の遺品整理もあるのでしょうか。木村 あります。他殺の場合、警察官がビニールシートで覆った遺体を部屋から運び出し、現場検証などが終わったあとに整理します。遺体を

業は時代を反映した右肩上がりビジネスになっている。  
死している現場も、老衰や病気で孤独死している現場も。木村 遺品整理の担当スタッフは、そのような場合には感染に注意します。普段の作業服ではなく、防護服を着用します。もちろん床、廊下、壁、窓、トイレ、風呂場、台所などを除菌作業も徹底して行います。  
あまり知られていませんが、ホテルの部屋での病死や自殺も多いですね。その場合は別な意味で気を使います。ホテル側は、部屋の自殺や病死を公にされたくありません。そのため、他の部屋の利用客などに知られないように、隠密に部屋に入り、静かに黙々と作業します。

運ぶ途中に落下やエレベーターなどで、体液がボタボタこぼれてしまうケースがあります。この時の掃除も臭いが残らないように徹底して清掃、除菌をしなければなりません。  
現場ではトラブルも 悪質な遺品整理業者も少なくない。昨年11月、愛知県で故人宅の遺品整理を受注した業者が、通帳と印鑑を盗み、銀行から40万円を引き出した。窃盗で逮捕されています。  
遺品整理で依頼主とトラブルになるケースがあります。木村 本の中に現金を隠していたのを思い出したとか、大切な写真がないとか、思わぬトラブルが起きることがあります。それを防ぐために、遺品整理が終了しても、すぐ警察処分するのではなく、倉庫に1週間ほど保管している業者もいます。あるケースでは、故人が生前に大事にしていた遺愛、遺品整理業者が5000円で引き取りました。依頼主が後日、テレビを見ていたら、その遺の査定金額が100万円だったというのです。一度売って預取書を受領していたので、売った本人が後悔するはかりません。裁判を起す方法もあるでしょうが、面倒にな

遺品整理業とはユニークな仕事です。どんな人から依頼があるのか。木村 主に親族がなくなった後に遺品を整理、処分したい人や、故人が残した家やマンションの部屋を片付けたい人などです。また、一戸建てを売却したいと思っても仕事が多忙で片付けられない人、高齢でタンクなど重い物を整理できない人などからの依頼もあり、さまざまです。  
遺品を整理する現場とはどのようなものですか。木村 依頼を受けると、まず家を訪れて部屋を見て回り、見積もりを出します。受注したら、タンクや机などの家具、電気製品、ゴミ類などの量を目測しながら、整理の手順を考え、担当するスタッフに指示を出します。品物は大きく五つくらいに分れます。まず金品、通帳などの「貴重品」、写真、手紙、趣味の道具などの「思い出の品」「衣類」「家具、電気製品」「食料品」、それにゴミ類です。貴重品はもちろん遺族に渡し、思

い出の品はシールするか袋に入れて、家具などは廃棄処分するからサイクルショップに引き取ってもらうかなどを相談します。  
近年、家の中がゴミだらけのいわゆる「ゴミ屋敷」が問題視されています。部屋を片付けられない人が増えているのでしょうか。木村 遺品整理の依頼を受けて訪ねる、大きな家の各部屋に背丈を超えるほどのゴミが積み上げられていることがあります。古新聞、古雑誌、買い物袋などのゴミ類、不要になった日用品や家具などが、うすたかたかまっています。ですが、そこに住んでいた故人が好んでそうしたわけではなく、たいていの場合、高齢になって体力が弱り、ゴミを捨てる行ったり、家の中を整理できなくなつて、ゴミ屋敷になってしまうのです。  
あるケースでは、数人のスタッフは何日もかけて整理、掃除に通り、トラックで何台分ものゴミ類を処理し、請求額が400万円ということもありました。

●聞き手 段 敷(シャイリス)

の専門家養成したいと考えているので、資格ほどのよさにして得られるのですか。

木村 ます、養成講座を受けてもらいます。教材は、遺品整理の現状や実際、関連する法規制などを解説した教本と、弁護士や大学教授などの講義を収録したDVDが中心です。約2か月間のプログラムですが、講座は通信制なので自宅で自分のペースで進められます。



遺品整理業者を養成したいと考える人々（養成講座）

せん。

木村 遺品整理、清掃業、葬儀社、リサイクル業などに携わる人、あるいは一般のサラリーマンや主婦もいます。遺品整理の需要が急速に高まっていることを知っており、将来のビジネスとして期待しているのだと思います。

これまで受講生数は約1万1000人で、合格者は約6000人です。男女の比率は6対4くらいで

## 「思い出が詰まった遺品を大切に扱い、遺族の喪失感を安心感に変えていきたい」

そして最後に問題集です。一般廃棄物と産業廃棄物の違い、遺体の処理など特殊清掃とは何か、家電リサイクル法とは、古物商とは、感染症の予防について、遺品整理士の心構えについてなどです。合格するためには、記述式の試験問題に解答する必要があります。文字数に制限はなく、何枚書いても構いません。合格率は平均75%ですが、合格するには何度でも挑戦できます。受講料は2万5000円、年齢や学歴は問いません。

### 立ち会いの人を

——よい遺品整理業者を選ぶポイント。

木村 第一に、業者に遺品整理の身を詳細に話して見積書を取ることです。それも1社ではなく、最低2社以上から取ってください。

次に、遺品整理の現場に依頼主が1人でいてはいけません。近所に住む親しい人とか、友人、あるいは民生委員でもいいでしょう。立ち会ってもらうこと。また遺品に家具、家電、自転車などリサイクルが可能なものがある場合、引き取り金額についても納得がいくまで話し合ってください。意外なものに価値があります。日本の仏壇は金箱が使われていたりして、工芸品として海外で高く売れることがあります。もし提示

るでしょうから。

一方、その逆のケースもあります。遺品整理代金2万円内で受注契約を結び、部屋の整理を始めた。すると、部屋の片隅から1木45万円もする高級約りさおが見つかりました。遺族と相談してそれを売却することにして、結果的に遺品整理代金の差額25万円が依頼主の臨時収入になりました。

遺品整理の業者に支払う代金の相場は。

木村 一口に遺品と言っても物によって処分料が違います。業者が整理を引き受けた遺品は、家庭ゴミとして処分することはできず、一般廃棄物として扱われます。食品、古紙、



遺品整理の現場では1軒1軒作業が求められる

家電、タンスなどそれぞれの運搬処理先は異なります。また部屋の取寄り、必要、不要の分類の細かさ、トイレ、キッチン、風呂場を各自清掃などの依頼があるかないかによっても代金が違ってきます。

業者によって請求金額はまちまちですが、ごく大ざっぱに言っておくと、取り1万円、作業員1人で約7万円、4LDKで作業員6人の場合は40万円くらいでしょうか。

木村さんは北海道小樽市で生まれ、大学卒業後は千葉県に勤務した。30代半ばで退職して広告代理店や飲食店をこ、相次ぎ8社の事業を起す。事業に対するチャレンジ精神が旺盛だった。

### なぜ遺品整理業に参入を

木村 直後の動機は4年前、父親の突然の事故死でした。私は長男で、葬儀を済ませた後、父親が残した遺品類の整理や処分を地元・小樽市の遺品整理専門業者に依頼したので。生前、父親が着ていた背広や少年時代と父親と一緒に海水浴や山登りを楽しんだ記念写真も、1枚見ただけでも思い出がよみがえって涙が出てきます。大切な思い出の遺品類を、依頼した業者があまりにも乱暴に取り扱っていました。その姿を横で見ている私は流石で、「もうい

い、やめてくれ」と断ったのです。この様な経験が遺品整理業に参入する動機になりました。

——それで自分で遺品整理の会社を興した。

木村 少数のスタッフを抱えての出発です。私はこのとき、遺品整理士は、故人の遺品を自身の家族のもののように扱い、故人や遺族に感謝されるような仕事をもちうことを心がけました。やがて仕事内容がメディアで報じられ、依頼の件数が順調に増えてきました。

### 認定資格を導入

11年には遺品整理の業界団体をつくり、「遺品整理士」という資格を認定する制度を設けた。国内初の試みで、手探りのスタートだったが、インターネットの大手検索サイトに紹介記事を取り上げられたことで、1日で全国から680人の申し込みがあるなど、想像以上に反響があった。



遺品整理の現場は1軒1軒作業が求められる

「遺品整理士」とは聞きなれない資格ですね。

木村 3年前に業界の健全化を目指すして、「遺品整理士認定協会」を設立しました。各業者に呼びかけたところ、賛同した約350社が会員になってくれました。参入する業者は年々増えますが、業務には明確な法規制やルールはなく、遺族とのトラブルや、遺品の不法投棄などの問題が指摘されています。そこで資格制度を設けて、信頼される遺品整理

された引き取り金額が不慮なら古物商などに相談するのでもいいでしょう。

### 他に注意することは

木村 見積もり以外のことは頼まないことです。「いつまでこの掃除を処分しておいて」とか、「この自転車を持って」とか、「この洋服も持って」とか、ついつい頼みがちです。しかし、見積もりに入っていない理由に常識外れの金額を後で請求する業者もいます。

また、手付金として廃棄物処理代を払ってほしいなどと現金を要求する業者もありますが、支払いはすべての作業が終わったあとにしたほうがよいでしょう。協会ではこうしたことをしないように指導しています。

——遺品整理に携わる人を行政に望みたいことは。

木村 他人の遺品整理でも自分の家族の遺品のように丁寧に扱うことです。亡くなった人の生きた証しを、大切に整理して遺族の喪失感を安心感に変え、故人にも喜ばれる仕事をしたいと目指しています。遺品が整理できる、気持ちの整理もできて次に踏み出せる。私たちが使命感を持って遺品整理士の養成を行っています。行政も関係省庁と自治体とが連携を取って、遺品業者が淘汰されるように協力してほしいですね。